

働こう障害者も 働けるんだオレ達も

# こぶしだより

2000年9月30日発行

発行責任者  
藤田勝春  
編集責任者  
田澤幸子



オリンピック  
おめでとう



つがもこの会

## 今月の紙面

- ①特集 (1~2P) 2次障害ケース検討実例報告  
第2けやき作業所に寄せて
- ②くらし (3~4P) グループホーム交流会報告  
ときわ荘この1年・みらいの会報告
- ③なかま (5P) 共作連に参加して  
なかまの声
- ④保護者・こよみ 共作連  
けやき諸橋さん
- ⑤紹介 (6~7P) 新任職員自己紹介

社会福祉法人

こぶしの会

\* 法人事務局  
こぶし作業所

☎ 321-0902 栃木県宇都宮市柳田町 1401  
TEL 028(662)1911 FAX 028(662)1912

\* けやき作業所  
\* デイサービスセンター

☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町 祖母井 2244  
TEL 028(687)1040 FAX 028(677)5789

\* 第二けやき作業所

☎ 321-3303 栃木県芳賀郡芳賀町 稲毛田 1532  
TEL 028(677)0495 FAX 028(687)4818

\* グループホーム  
ときわ荘

☎ 321-0954 栃木県宇都宮市元今泉 6-14-20  
TEL 028(662)5533

\* グループホーム  
すずらん

☎ 321-3304 栃木県芳賀郡芳賀町 祖母井 2305-2  
TEL 028(677)4430

## 2次障害ケース検討

## 実例報告

こぶし作業所には、全体の三割強に当たる十名の人が身体障害を持っています。中でも、二次障害かと思われる「肩こり・頭痛・手足のしびれ・腰痛」などが出ている人たちが目立つようになってきました。年代的には、三十代後半から五十代と、年齢の高まりと同時に進行で現れてきているようですが、未だ二十代前半の若い人にも見られます。こうした状況にどう対応し、対策をとったら良いのかと、数年前から検討課題になっていました。しかし、なかなか具体的にならず現在に至っていません。

今年度に入り、県身体障害医療福祉センター所長の高柳先生をお迎えしての、学習会も兼ねた「ケース検討」が実現しました。毎回一人ずつケースを取り上げ、本人及び家族の方にも一緒に参加して頂きながら、作業時の姿勢・移動や、日常活動の様子を見て頂き、具体的アドバイスを受けるといった内容です。仲間間は初め、少々緊張気味ですが、小さい頃から

ら知っている高柳先生の問いかけに、いつしか緊張もほぐれ、高柳先生が触れる硬直した腕や足がすーっと伸びている姿に驚かされることしきりです。幼稚な私たちの質問にもひとつひとつ丁寧に応えてくださり、時の経つのも忘れるほどです。未だ六月・八月と二回の実施ですが、その中で、高柳先生からのアドバイスでポイントと思われるお話を報告したいと思います。

六月の一回目は、現在二十三歳の滝口さん（男性）のケースでした。移動は手をつないだり、作業所内では歩行器をつかっているのですが、このところ身長伸びが目立つ中、どうもふらついて安定せず、歩行器は所内を暴走！するのに役立っている？また、以前から気になっている傾湾が進行しているのでは・・・という状態でした。高柳先生からは、ふらついてバランスがとれないのは、成長期に身長伸びに対して筋力が追いついていけないために起きているとのこと、次のようなアドバイスを受けました。今後の取り組みとして、筋力をつけるために\*時間を設定し立った姿勢で作業する\*できるだけ自分の力で移動する\*散歩はゆっくり一歩一歩確実に\*身体全体のリラクセスに心掛ける\*歩行器に重りをつけ、引っ張られている状態から、ゆっくり歩ける状況にする。そして、リハビリす

るときに注意することとして、本人の自立をいかに促すかが大切で、本人が納得して取り組めるよう、また、周囲の仲間との関係を認めながら（孤立しないよう）行うこと、とのことでした。そして、「プラスマイナスを含めての自己決定」の尊重と「時々できたことは本物ではなく、実用的にできた時本物になる」との言葉が印象に残りました。

第二回目は、八月に実施しました。対象者は牛丸さん（男性）。日常的に車椅子を使用していて、パソコンによる作業に取り組みしています。移動は足を蹴りながら後ろ向きで行い、何事にもチャレンジ精神旺盛です。しかし、風邪など体調の崩れによる突っ張りや肩こり、頭痛に悩まされています。高柳先生とは古く長いお付き合いとのこと。まず、突っ張りについては、頸椎脊髄症がでてくる頃で、三十代後半から四十代を境に出てくる。\*長時間緊張することを避け、リラクセスした時には、いつでも自由にできる条件・環境（寝ころべる場所等）を整えておく\*生活全般を見た時に、親の高齢化・本人の機能が低下してくる中、お互いが将来についてどうイメージを持っているのか、持つのかについて本音で出し合うこと、施設としてそれをどうサポートしコーディネートしていくのか、とのことでした。つまり、本人が、自分の将来をどう考え

るか正面から向き合い、主体性をもって、自己選択し、自己決定すること、まわりは、それをどうサポートするか、できるのかを考え、ていくこと、ということ。そして何より、こうしたケース検討の場に本人が参加していることを、評価していただきました。これらのアドバイスを受け、今、毎日担当者による取り組みが続けられているところです。

(こぶし 鈴木)

## 第2けやき作業所に寄せて

「理解の輪を広めよう」

平成12年7月、高橋所長さんのお骨折りにより、芳賀管内に2つ目の作業所がオープンしました。1つ目の真岡地区ひまわり共同作業所は県東健康福祉センターの近くにあり、平成4年に開設しましたので、9年目を迎えます。作業所に通所している方とのふれあいを通してその人達から教えられた『接し方』について、少しお伝えします。

精神障害者は、往々にして、疾病と『生活のしづらさ』という障害を併せ持っています。そのため、症状が落ちついても条件により再発することがあります。例えば、新しい環境での人づき合い、仕事への熱中等により心の

バランスが崩れ、落ち込んでしまうことがあります。このような時、援助者の役割が重要になってきます。先ず個別相談で対応しますが、回復しない時は、仕事を早めに休むように促しましょう。そして治療等により安定したら再通所を勧めます。この不安定な期間は人によって実に様々です。「あの人は休みがちでダメだ！」とレッテルを貼らずに、ゆっくり見守ってあげた方が良いと思います。

優しさが充電されれば、きっと又会いに来てくれますので・・・

(県東健康福祉センター 地域保健課

伊藤 修子)

「夢を語り合おうよ！」

「いきいきと生きる」ということは、自分の居場所があり、行く場所があり、自分の存在を感じられる、ということであると思います。

「そこ」に通い、仲間たちと将来の夢を語り合いましょう。

夢はどうしたら実現できるのでしょうか？

どう取り組んだらよいのでしょうか？

皆で考え合い、語り合い、共に夢を実現化していきましょう。

こういう場が、きつと、「第2けやき作業所」なのだと思います。

(県東健康福祉センター 地域福祉課  
福田 進)

第2けやき作業所に入って、もう1ヶ月が経とうとしています。最初はいろんな作業にとまどっていた私も、最近やっとできるようになってきました。スタッフの優しいご指導や仲間たちとのふれあい、そして己への自信、いろいろ大切なことを見つけました。「経験ツテナンダロウ？」をいつも心の中にもちながらこれからも頑張ろうと思います。そしてこれからの未来を切り開く人間に、なっていきたいです。

(第2けやき 押久保 由佳)

第2けやき作業所に、通うようになってから1ヶ月が経ちました。仕事は、カセット作業と調理実習です。どちらも一生懸命頑張つてやっています。月曜日は買い出しに行く日です。結構上手にできて、おいしいねと言つて、語らいながら3人で食べます。ちよつと一息入れて、ほつとする時間です。これからも、なんにでも挑戦して、楽しみながら仕事を続けたいと思います。

(第2けやき 平野 千恵子)

# グループホーム

## 交流会報告

### 開催目的

第1回のG・H交流会を開催するにあたって、  
 共作連では「組織のあり方検討委員会や23  
 回総会議案の中でいくつか触れています。

要約すると、内外の情勢の変化の中で、共  
 作連の組織の性格の中に「生活支援」という  
 文言を加えました。そしてその内容は、小規  
 模で地域性を備えたものという提起をしてい  
 ます。その議論の中で会員の対象として生活  
 支援センターやグループホームを加えてきた  
 のです。さらに、生活施設、グループホーム  
 部会の中では、部会の設立経過（入所施設の  
 交流会として自主的に組織されてきた。）、  
 入所施設と最近加入の増えてきているグルー  
 プホーム・生活支援センターの議論が合  
 わなくなってきたり、という事情があります。  
 そこで、部会の組織の見直しを見通しながら、  
 今回初めて、グループホームの交流会を開催  
 しました。

（けやき 高橋）

### 記念講演

記念講演は愛知江南短大の峰島さんと呼ん  
 で「グループホームをめぐる情勢と課題」と  
 という題で、大きく分けると3つの内容につい  
 て話されました。

- ① 今回の交流会の意義について
- ② 社会福祉法・障害種別福祉法の改定内  
 容について
- ③ グループホーム施策の動向と今後の方  
 向性について

この中で一番印象に残ったのが③です。最  
 近始まった痴呆性老人グループホームと比較  
 するとあまりにも施策レベルが低い、世話  
 人と言われる人に求められるものが多く、特  
 に他人には見えづらい援助（間接生活介護）  
 が多いこと、世話人にはこれからグループホ  
 ムが地域のたまり場の立場になることを想定  
 して資格（ガイドヘルパー等）を取ることに、  
 社会に今ある資源を有効に活用し、使いやす  
 くしていくこと等話されていました。

（けやき 切無沢）

### まとめ

去る七月十一・十二日、共同作業所全国連  
 絡会主催の第一回グループホーム交流会に参  
 加してきました。参加者のほとんどが世話人  
 ということもあり、分散会等では労働条件や

仲間への援助について、リアルな話が沢山で  
 ました。

生活の場として期待が高まるグループホー  
 ムですが、就労条件の撤廃など、障害の重い  
 人も利用しやすくなった反面、安上がりの福  
 祉の枠の中にあるのは変わりなく、様々な制  
 度の採用や、ホームの質が問われてくるなど  
 課題も多くあります。まとめでは、グループ  
 ホームの理念づくりや、世話人の労働をどう  
 周囲が受けとめ理解していくか、問題提起が  
 ありました。

（こぶし 金田）

### 感想

G・Hの職員という同じ職種の人たちで二  
 日間という限られた時間の中、沢山話ができ、  
 大変充実したものになりました。人を支える  
 ということがどういふことなのか、また、そ  
 の深さ・大切さ強く感じました。労働条件の  
 話にしても、当事者が訴えるのではなく、そ  
 の職員が働き続けることができるようバック  
 アップ施設・労働組合等、それぞれの立場の  
 人が「支え合う」責任を追求することが大切  
 なのではと感じました。それが、障害者を支  
 えることにもなるのだと思います。

（こぶし 金田）

国の施策が入所型から地域の中での生活に  
 向かっている傾向にあるが、今ある制度で重

い人を受け止めて運営しているグループホームが多くあることを知った。しかし、参加したホームの事例の中には人手不足から入浴やトイレ介助の場面での異性介助が当たり前の様に行われている所もあると聞き、ホームでの援助を取り巻く環境の貧困さに驚いた。また仲間の生活をまるごと受け止めるためには、作業所、グループホームが相互に仲間の状況等を報告し合い、バックアップ施設と連携して運営していかなければならないと考える。そして今後とも世話人の生活に仲間を合わせるのではなく、仲間の要求を引き出し、仲間の生活を一緒に築いていくことが必要である。

(けやき 切無沢)

## ときわ荘この1年

「こぶしのときわ荘」がスタートして、早一年が過ぎようとしています。短い時間を振り返ると、やってみてわかることの多さが一番の印象です。

当初は、今まで培われた四人のそれぞれの生活習慣が混ざり合い「落ち着くまでに時間がかかるかな?」「ホームシツク等でどうかな?」と思ったことも、お互いを認め合う力でも乗り越え「生活」を創り出してきました。できること、できないことも含め、その人なんだ!と認める力は、こぶしを通して(自治

会活動等) 培った部分は大きいのではないのでしょうか。

家族も初めは、本人たちが居なくなり、「家の中にポツカリ穴が空いたようだ・・」と淋しさを感じたようです。時間が経つにつれ、それが「存在感」として気付いてきていくことでしょう。顔を合わせると喧嘩ばかりしていても、離れると子供として、また一人の人間として大切な存在であることを確認できたのだと思います。仲間自身も親と離れて「親の大切さ」を感じているようで、土・日曜日に帰りたいのも、単に甘えられるからではなく、親への優しさがあるようです。よく「大人として」とか、「自立」「親離れ・子離れ」などと言いますが、相手の存在を認め合うことが第一歩のように思います。認めてもらった喜びが自信となり、新しい世界・生活を創っていくのではないのでしょうか。

(こぶし 金田)

## みらいの会報告

「みらい」の会は現在益子養護学校に通っている保護者から、芳賀郡内にある作業所はどこも定員が満杯なため、自分の子供が学校を

卒業した後通える作業所がないので自分たちで芳賀郡内の中心地である真岡市に作業所を作ろうと声があがり約半年間の準備期間を経て、今年の3月26日に真岡市公民館で設立総会が開かれ「みらい」の会が発足しました。その後、各地のフリーマーケットに参加したりアルミ缶を集め神戸製鋼で換金する事業活動に取り組んできました。しかし、これらの活動だけでは作業所建設のための自己資金の1,000万円には程遠いためチャリティー絵画展をアートフォレストさんの協力で企画しました。会員はこのような大規模な事業活動は初めての方ばかりで不慣れな所がありましたが、8月19日から21日の3日間真岡市のグランドホテル静風で開催し期間中は大勢のお客様が来場され1,000万円を超す売り上げがあがり会員の自信につながりました。また、真岡市の各団体より寄附金をいただき徐々に「みらい」の会の名前が真岡地域に浸透しているのが感じられました。こぶしの会の理事会においても承認され、建設委員会が発足し第1回建設委員会が9月12日に開催され平成14年4月開所にむけて建設の自己資金が約1,000万円必要なため今後の募金活動と事業活動が確認されました。今後とも「みらい」の会の活動のご協力をお願いいたします。

(けやき 田島)

### 共作連に参加して

わかやまけんに行ったことについて  
 みんなであつまてはなしあつたこと  
 れあいつこんについてはなしあいました  
 またあつまてはなしあつた  
 またらいねんあいましようといました  
 またつぎのひにあつまてはなしあつた  
 ながのであいましようといました  
 いしいめぐみさんのはなしはとてもよかた  
 です

こんどあえるひおたのしみをしています  
 らいねんもいききたいです  
 (こぶし仲間自治会会長 大橋義一)

### 初めての共作連大会

全国の作業所で働く仲間たちや職員や関係者が共作連大会に集まってくる。直接、分科会で学んだことが即生きてくるかどうかはわからない。でも、作業所の労働で抱える悩みも率直に出し合える。共作連大会に出るといふことは、元気をもらいに行くということだろう。懐かしい方にも会え収穫ある和歌山での大会であった。

(こぶし 東岡)

### なかまの声

こぶし編・テーマ「納品、外勤作業」  
 このときは、仲間たちが「働いたぞ！」という実感を感じるときでもあります。

◆石けん班

「納品行くか」(大橋)

「午後1時に、・・・荘に、石けんの納品！」

(佐々木)

◆ベアリング班

「(納品) 行くの、行くの。」(飯野)

(納品当番だよ、という声かけに) 「うん」と大きくうなづく

「ベアリング、納品、行く」(井沢)

なかには、待ちきれずに納品の車に乗り込んで

いる仲間も・・・

◆リサイクル班

牛乳パック回収の前には、「トラック、トラック。」(鬼頭)と作業所の外での作業を

楽しみにしています。

◆自動販売機作業

「うん、うん」(星野)

(機械に缶を入れるポーズをして) 「いく」

(福田)

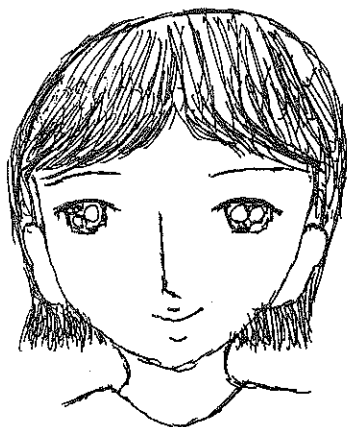
(結論) やはり、外での作業は楽しい。

(福田)

向田英浩



小林秀子



かまたい  
 鎌田臣一

# おむすび

早いもので優子がけやき作業所に入所して一年が経ち、この春「成人式」を迎えました。思えば、優子は生後三ヶ月に股関節脱臼でリハビリに毎日通い、そして良くなりましたが、風邪をひきやすかったので病院通いが絶えない子でした。また、それが元かは分かりませんが、一歳半の時に「紫斑病（血小板減少性紫斑病）」と医師に聞かされた時は驚きと不安でいっぱいでした。四ヶ月後、外に虫の音が聞こえた頃退院の話になり喜んでいました。・が、次の日、お尻のまわりにぼつぼつと水疱があるのに気付き、回診の時に医師に相談すると、「これは水疱瘡かもしれない。」と言われ、さらに「紫斑病で水疱瘡になると三人に一人は命の危険がある。」と聞かされ、涙が止まりませんでした。その夜から、高熱を出し、何日も眠れぬ夜が続きました。

しかし、熱は少しづつ下がり、何ともいえない元気な笑顔を優子は見せてくれました。病棟の中でも、皆に可愛がつてもらい、ちょうど一歩二歩と歩き始める一歳九ヶ月頃退院となりました。

そんな優子が、それからは普通に学校生活を過ごして来ました。

しかし、ある日突然「足が痛い」と言うので病院に連れていくと「股関節が脱臼している」と医師に告げられ、高校一年の夏休みに手術をしました。そのせいで一年留年してしまっただけで無事に卒業することができました。

卒業後の就職は身体の障害と病気のせいが残ってしまった知的障害で思うようにはいかず、現在はけやき作業所にお世話になっていきます。そして、この四月から製パン班に入り、仲間とうまくいかないこともあるようですが、毎日職員の方々にご指導いただいて頑張っている様子です。

優子の粘り強さと優しい心を忘れないで一歩一歩、自立への道を歩んでいってほしいと思います。  
(けやき保護者 諸橋 良子)



# 10月 こよみ

こぶし作業所

- 1日(日) 日曜作業所「けやきまつり」
- 8日(土) バザー準備
- 9日(月) 第23回チャリティーバザー
- 14日(土) バザー予備日(職員会議)
- 18日(水) キッチン・セルフオープン
- 21日(土) 指導会議
- 25日(水) 保護者会臨時総会
- けやき作業所
- 1日(日) けやきまつり
- 7日(土) ケース検討会議(予定)
- 14日(土) ふれあいの夜祭り
- 29日(日) 芳賀町ふれあい運動会
- 日産しらす祭り

## 新任職員紹介

こぶし作業所に勤務させていただくようになって、早2週間が過ぎました。仲間達とも少しずつコミュニケーションがとれるようになり、目と目が合うと微笑み返してくれるようになりました。

私は仲間達が、自分の持っている能力を十分発揮できるように、少しでも、そのお手伝いのできたらと思う、この職業を選びました。三ヶ月という短い間ですが、私なりに精一



杯ががんばっていききたいと思っています。

(こぶし 直井里美)

はじめまして。この度、こぶし作業所の臨時職員として仲間に入れていただくことになりました驚尾です。年令は、人生の半分以上に到達していますが、右も左もわからずご父兄の皆様、職員の方々、仲間たちには、ご迷惑ばかりおかけしている毎日です。仲間の皆さんの笑顔や明るい表情を拝見していると、「人間は、助け合い協力していかなければ成り立たない。」と認識させられます。仲間の皆さんと勤労の喜びを共にできるように自分なりに、「笑顔」で問いかけていけるよう努力したいと思しますので、よろしく願います。

(こぶし 驚尾千代子)

はじめまして、上代弘之と申します。けやき作業所で働き始めてまだ1カ月程ですが今まで勤めていた入所型の施設とは、仲間の方々の表情が、まるで違い生粋について楽しそうだと感じました。それは恐らく辛い事があっても帰ることの出来る家庭があるのだと思います。これからも、家族の方々と協力して、仲間の方々の将来について、考えていきたいと思しますので、よろしく願います。

(けやき 上代弘之)

### 掲 示 板

○けやきまつり

10月1日(日)

10時30分～15時00分

第2けやき作業所(旧稲毛田小学校)

ご来場お待ちしております。

○こぶしバザー

10月9日(月)

9時30分～15時30分

二荒山神社境内にて

たぐいま品物受付中!

お待ちしております。

○小規模通所授産施設解説セミナー

10月22日(日)

13時00分～16時30分

宇都宮市総合福祉センター・費用2千円

お申し込みはけやき作業所 田村まで

(10月13日までにお申し込み下さい)

○けやき作業所職員退職のお知らせ

けやき作業所デイサービスセンター勤務

の岡本かおりさんが9月18日をもって

退職されました。

ふふふ石けん  
好評発売中!

粉石けん	1.2kg箱入	¥270
	1.2kg袋入	¥240
固形石けん	2個入	¥100
ご注文いつでもOK!		

ここにパンやさん

注文票をFAXにてお送りいたしますので、お気軽にご連絡下さい。

けやき後援会  
会費収入に御協力下さい

ご連絡はこぶし・けやきどちらでも  
けっこうです。宜しくお願いいたします。